

## 令和4年度 総社市つどいの広場事業（山手会場）業務委託 事業報告

### 1. 子育て親子の交流と場の提供と交流の促進

山手保健センターつどいのひろば

スタッフの人数

保育士4名 保健師2名 助産師2名 社会福祉士1名 小学校教諭1名 ボランティアスタッフ1名

#### ①つどいの広場 ちびっこひろばの開催

開設日数 月曜日～金曜日の週5日 開設時間 9:30～16:00

年間開所日数 242日 月平均 20.2日

年間登録組数 433組 年間登録者数(実) 571名

年間利用者数(延べ) 6,290名

年間利用組数(延べ) 4,834組(午前2,830組 午後2,004組)

### 2. 子育てに関する相談、援助の実施

保健師相談日 1年 96日

助産師相談日 1年 48日

にこにこ訪問 (年 4件 うち1件中止) スマイル訪問 (年 2件 延11回)

託児支援 (年22組 25人)

### 3. 子育て及び子育て支援に関する講習会の実施

①赤ちゃんタイムの開催 (毎月第4木曜日) 年間参加組数 151組(12回分)

②プレママタイムの開催 (毎月第2火曜日) 年間参加組数 48組(12回分)

③親子体操 (年 4回) 年間参加組数 0組(全中止)

④性教育講座 (年 4回) 年間参加組数 47組(4回分)

⑤ママ先生による講習会 (年 10回 延 80名) エンパワメント事業

⑥食育プログラム (年 15回 延192名) 毎月ポスターの掲示

#### ⑦親育ち講座

・赤ちゃんサロン (年 1回 延15名) ・子育て座談会 (年 6回 延78名)

・親育ち応援学習プログラム (年 2回 延15名) ・子育て講習会 (年 7回 延74名)

#### ⑧市との連携

・市栄養士による栄養指導内容についての助言指導(随時) 講座(4回) 食育会議(2回)

・市の保健師に気になる子について相談(随時) カンガルー広場(月1回) つどいらっこオープン(2回)

・チュッピーこどもまつり ・幼稚園・保育園説明会(3回)

### 4. 地域子育て力を高める取り組み

①外あそびの日の開催 (毎月2-3回不定期) 年間参加組数 346組

(地域の主要公園への出張ひろば)

②愛育委員会との連携 (赤ちゃんタイムにて)

③栄養委員会との協働 (年 2回)

④山手支援センターとの協働 (年 3回)

⑤親子クラブとの連携 運営のための相談(たんぼぼ・キリン・ライオン・わかば)

行事の協働(たんぼぼクラブ年 2回) 入会用紙の設置

⑥お話ボランティア (年 12回) 年間参加組数 延97組(今年度はスタッフによる)

⑦地域施設との協働 ・歯科衛生士(山手グリーン歯科)さんによる歯のお話(1回)

・お魚屋さん(平商店)がやってくる ・英プレイさんによる英語であそぼう

・地域づくり協議会(健康福祉フェア)出張ひろばとして参加

⑧祖父母利用者数 (延85名)

### 5. 特別支援対応加算事業

すくすくほっと相談 (毎週月・木曜日) 年間開催日数 89日 相談件数 290件

PEC (毎月第1木曜日) 5月～2月 10回 参加組数 延 60組

発達支援研修 (年 2回 うち1回は広場研修として)

## 6. 利用者のエンパワメント

- ・読み聞かせ ・ママによる親育ち応援学習プログラムファシリテーション
- ・広場内図書（雪舟文庫）のママボラ管理
- ・ママ先生による講習会  
コサージュ、ベビーヨガ、わらべうた、手作りおもちゃ、口腔ケア講習会、 等

## 7. 子育て支援団体等との連携・協働事業

- ・なかよし広場っこ・ぴよっこ・チュッピーひろばとの連携
- ・県大子育てカレッジ実行委員会参加 ・岡山子育てネットワーク
- ・おかもやま地域子育て支援拠点ネットワーク ・NPO法人子育てひろば全国連絡協議会
- ・愛育委員会 ・栄養委員会 ・山手福祉センター ・山手ふれあいセンター
- ・地域子育てボランティア育成（ちびボラの育成）
- ・山手健康福祉フェア参加 出張ひろば

## 8. 研修会への積極的な参加（年 63 講座 延118 名参加）

- ・子育てひろば全国連絡協議会 全国大会（ 3 名）
- ・子育てひろば全国連絡協議会 初任者研修会（オンライン）（ 4 名 ）
- ・備中晴れの国交流会（ 2 名 ）
- ・ゲートキーパー（こころの支援）養成講座（ 1 名 ）

### 【よかったこと】

- ・今年度も新型コロナウイルス感染に伴い、人数制限や企画制限はあったが、感染防止対策を行ないながら、広場を閉鎖することなく開催できたことは、総社市役所保健師さんの支援と、利用者の方の「広場を開けてほしい」という強い思いがあつてこそと、感謝している。感染の波がくる度に「開けてくれてありがとう」の一言に励まされながら、広場の感染対策を行ない、クラスターを起こさないように、利用者の方が安心して過ごせる、何気ない日常を守っていきたくと強く感じた1年だった。
- ・昨年からは始まったPECでは、相談支援専門員の方にも参加をいただき、普段の広場で専門的な相談が受けられるような支援もできた。すすく相談日では、同じスタッフを配置することで、何度も説明をしなくてもわかってもらえるという安心感も作る事ができた。
- ・カンガルー広場では、市保健師との協働で親子の育ちの見守りが広場内で実施でき、親子の育ちを細やかに応援できる体制も整ってきた。
- ・今年度からは多胎支援や託児支援も開始し、新しい広場の支援の形も模索できたように感じている。
- ・広場の果たす役割は大きく、多岐にわたっているが、その一つ一つを丁寧にかかわり、支援を実践できたように感じている。地域、保護者同士、子ども同士が、現実の世界で、声をかわし、声を聴き、自然の営みを肌で感じ、笑顔で過ごしていける、お互い様の精神のもと、誰もが子育て支援に携わっていけるよう、心がけていきたい。

### 【改善点と今後の課題】

・新型コロナウイルス感染が始まって以来、脱メディアを言い続けた広場が、皮肉にもメディアの力を借りて、子育て支援を発信するなど、新しい子育て支援の在り方を模索する必要に迫られた。特に感染防止対策の一環として、ランチルームの閉鎖が余技なくされ、実際の食事風景など見ることもなく、メディアに頼る現状は今でも続いている。そして、『その子』を見る力は急速に衰えを見せているように感じている。誰からも教わらない、育児を見よう見まねで頑張ってきた社会が崩壊し、現実を見ることなく閉ざされた、メディア社会でのみ情報を得る、その中で、保護者達は、感染のリスクと闘いながら育児を行なっていくことを強いられている。保護者達の喘ぎを肌で感じながら、それでもメディアの力を借りつつも、どうやってこの時代に抗っていけばいいのかを常に考えながら、活きた情報の発信源として、保護者の困り感を支えながら、広報のあり方や卒業していったママたちの活躍の場をともに考え、伴奏型支援と循環型支援、そしてお互い様の精神のもと、ともに生きる社会を目指し活動していきたい。